

2024.05.02. 木曜礼拝「レビ記にある宝物 焼き尽くす献げ物」

レビ1章1節から9節

マック牧師

一緒に祈りましょう。主よ、お父様、あなたの御前に参ります。私たちが目にしたすべてのことに感謝します。この世で起こることには頼らず、あなただけに依り頼みます。主よ、父・子・聖霊を褒め称えます。主よ、今夜共にいてくださいますように。主よ、私たちの思いをクリアにし、私たちに集中力を与えてください。マック牧師をあなたに感謝します。主よ、今晚の御言葉を伝える彼を祝福し、守り、見守ってください。イエスの御名によって、アーメン。主を褒め称えます。ありがとうございます。どうぞご着席ください。さて、教会の皆さん、素晴らしい聖人と罪びとの皆さん、こんばんは。でしょ？ 私たち全員がそうですね。J.D.ファラグ牧師に代わって、カルバリー・カネオへようこそ。今夜ここにいるビジネス関係者の皆さん、皆さんが愛され、この惑星で最も素晴らしい交わりを受けられますように。また、オンラインで参加される方、ここカルバリー・カネオへでの木曜夜のライブ配信礼拝へようこそ。いつもは、JD牧師が、現在の「ダニエル書」を一行ずつ教えていますが、しかし、今夜から5週間、私たちは人々が耐えられない、理解できない書の教えのシリーズを学びます。でも、主が祝福してくださるよう祈ります。今夜の学びを始める前に、ペドロ夫妻を代表し、この土曜日はジョー・サン・ペドロのいのちのお祝いをするをお伝えします。娘さんの一人が3月21日に亡くなりました。彼女がいないのはとても寂しいです。9時から交わりの時を持ち、追悼式は午前10時に始めます。今週の土曜日です。ですから、あなたが来られ、ご家族をサポートできるなら、ぜひそうしてほしいと思います。誰であれ、子供を失うのはつらいことだからです。ほとんど考えられません。次回の祈り会について、皆さんにお知らせしたいと思います。なんかうまく（画面が）行ってません。上等じゃないか。祈り会は来週の火曜日で、事実、5月7日の午後7時、この礼拝堂で行います。ですから、可能であれば、祈り会に参加してくださいますように。私たちには得られる限りの祈りが必要だからです。聖典のどこにも、これ以上のことは書かれていません。だから、もっと祈った方がいいです。信じてください。では今夜の学びを始める前に、一緒に祈りの言葉を捧げましょう。でもね、クリックできないので祈っています。どうやら作動したくないようです。神をたたえます。（動きました。）誰か祈ってくださいましたね。では一緒に祈りましょう。

ああ、天国の父よ。あなたというご存在に感謝します。主よ、あなたがご忠実にしてくださる通り、ここで私たちと出会ってくださいますように。あなたの御霊の力で、私たちの前を行かれ、私たちが聞き、注意を払い、それによって自己に死ぬために、御言葉を聞いて下さらないと何も意味がありません。私たちはあなたが必要です。あなたにしかできないことをしてくださいますように。私たちはここにいて、あなたが助けてくださるのを心待ちにしています。イエスの力強い御名によって祈ります。アーメン。

あら、ちゃんと動かないな。さて、今夜と、今後4回の木曜日は、「レビ記」の学びシリーズをします。このシリーズのタイトルを『レビ記にある宝物』としました。で、この最初の学びは、主への焼き尽くす全焼の捧げ物やいけにえに関するものです。言うまでもなく、5回シリーズでは、この書で見過ごされがちな豊かさのすべてを引き出すことはできません。今夜、私たちがこの聖句に触れるとしても、そこからすべての富を掘り出すことはできません。掘り出すものがたくさんあるからです。しかし、その祈りは主の祝福と共にあって、すべて学び終わったら、私たちは「レビ記」をよりよく認識し、理解することができるでしょう。そして、これらの霊的真理を正しく適応することで、主との歩みは強められるでしょう。これは、私が喜んで飛び跳ねてする学びではありません。だって、考えてみてください。タイトルに「レビ記」という単語があるだけで、人々は黙ってしまいます。だから今夜は3人しかいないのです。いやいや。ー（笑）ー

ほんの冗談です。しかし、そんなことは問題ではありません。そうじゃなく、私たちは神が仰ることを宣べ伝えなければならないからです。それが肝心です。なぜなら、私は別の焦点があるけれど、神がダメと仰います。人によくこう聞かれます。「どうしてわかるんですか？ うまくいっていないんだから。」それがひとつの兆候です。それが奮闘です。すると聖人たちがやってきて何かを口にし、主があなたにその方向をやさしく指し示される。そしてあなたはその中を歩くと、主はそれを非常にはっきりと示してくださる。（紅海を分けるほどわかりやすく）ですから、神のご方法でした方が良いです。それが最善の方法だから。（会衆：アーメン）

私にとって、信者になりたての頃「レビ記」を読んで、非常に厄介でした。混乱もし、でも厄介でした。何を言っているのかさっぱりわかりませんでした。文脈を無視したり、極端に教えたりする人は、助けになりません。悲しいことに、多くの熟練したクリスチャンは、納得のいく答えを出すことができませんでした。彼らのおもな反応のひとつは次の通りです。彼らはこう言います。「その書はユダヤ人だけのもの。」でしょ？ それとか、「あまり深読みしない方がいい。こんにちの私たちのためではないから。」それって、小学4年生には、十分な答えかもしれませんが、本当に神の御言葉、生きた活発な御言葉に飛び込みたい人にとっては当てはまりません。そうならないのはいいことです。私たちがすべてを探し続けることになるから。神の御言葉は明確です。説教壇に立つことを召されている私たちは、人々に教えなければなりません。そして言い訳をしないこと。聖典に記されたことのどれでも教えたくないなら、あなたは召されていません。私たちはこう語られています。

「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばで生きる。」(マタイ 4:4)

たとえその御言葉が直接当てはまらないとしても、私たちは常に霊的な適応に注意を払うべきです。そこにあるからです。これらの霊的適応は、私たち一人ひとりが日常的に生き、真の生ける神を賛美するための完璧な指針を与えると、私は心から信じます。イエスが引用された、「人はパンだけで生きるのではない」をよく考えてみましょう。聖典を振り返ってみるのが賢明でしょう。「申命記8章3節」をご覧ください。神の御言葉は仰られます。

一申命記 8:3一

それで主は（イスラエルの神は）あなたを苦しめ、飢えさせて、あなたも知らず、あなたの父祖たちも知らなかったマナを食べさせてくださった。それは、人はパンだけで生きるのではなく、人は主の御口から出るすべてのことばで生きるということ、あなたに分からせるためであった。

これが分かりますか？ 神がマナと御言葉をどのように結びつけておられるかがわかりますか？ そして、なぜイエスがいのちのパンで、御言葉なのか。繰り返しますが、すべての神の御言葉には、私たちが生きるために用いることができ、また用いるべき側面があります。「レビ記」の何が面白いかわかりますか？ それは、聖書のどの書よりも、神ご自身からの直接的なお告げが最も多く書かれているからです。考えてみてください。その90%近くは、神の口から直接発せられた言葉です。だから私たちにとって、この書は特に軽視すべきではありません。どれもそうであってはなりませんが、私たちの学びのために、ここで示されていることに細心の注意を払わなければなりません。事実、イエスもこの言葉を語っておられます。「ルカの福音書24章44節」に記されています。神の御言葉は、この点、実に明確です。お読みします。

一ルカ 24:44一

そしてイエスは言われた。「わたしがまだあなたがたと一緒にいたころ、あなたがたに話したことばはこうです。わたしについて、モーセの律法と預言者たちの書と詩篇に書いてあることは、すべて成就しなければなりません。」

「レビ記」はモーセの律法の主要な部分で、イエスに関係していると言わせていただきます。この書のボリュームのように、それがイエスに関するものなら、それは私たちにも関係するはずですが。実際、いろいろな意味で、私たちが虜にするはずですが。それが理解できるよう祈ります。しかし、この書にラベルを貼るとすれば、多くの人がこの書は『神の聖性を表す』と指摘します。ひと言で言えばそういうことです。これがこの書全体のテーマです。神聖さと聖別されたものという概念は、こんにちでも十分に通用します。そうなんです。「レビ記」に書かれているような儀式を私たちが行うという話ではありません。あるいは、私たちは律法に立ち返ったり、律法主義的な生き方をしながら、真の生ける神に仕え、礼拝するのでもありません。違います。イエスがすでに成し遂げ完成された御業に、私たちが付け加えることはできません。しかし、クリスチャンとして生きるべき道があります。そしてその道は、真の生ける神に榮譽と栄光をもたらすはずですが。そして、この書は、実に多くの点でこのことを神聖に捉えています。さて、私たちは一般的な生き方を選び、汚れた者になることもできます。しかし、神には基準があらわれます。私たちにそれが分かります。クリスチャンとしてそれを知るべきです。神がどれほど良いお方であるかという理由から、私たちはその基準を実行したいという願望を霊的に持つべきなのです。そうすることで、主のために聖なる者として生きる

時、私たちの人生は主のために聖別されたものとなります。それは仲間たちにもはっきりとわかるはずで
す。なぜか？ なぜなら、私たちは主の御言葉のもとで、機能しているからです。ですから、私たちの聖性
は、神のいつくしみへの自然な霊的反応であるべきです。皆さん、ついてきていますか？ 聖句がどのように
配置されているのかにも注目すべきです。特に「レビ記」はそうです。その前には「出エジプト記」があり
ます。「出エジプト記」では、神が人へ近付かれます。「レビ記」は、神への人の応答が記されます。それ
について考えてみてください。彼ら（民）は解放され、すべての奇跡を見、神のいつくしみを直接体験しまし
た。それが私たちがすべき反応を彼らが応答すべき理由です。神のいつくしみゆえに。以上を踏まえ、本題
に入ります。「レビ記」の中で全焼のささげ物として知られるこの最初のささげ物を見ます。ここでは、最初
の9節だけを説明し、他の節については簡単に説明します。前述のように、ここには本当にたくさんのこと
があるからです。私たち全員が祝福されることを祈ります。それでは、「レビ記」1章、1節と2節を見て
ください。神の御言葉をお読みします。

ーレビ 1：1ー

主はモーセを呼び、会見の天幕から彼にこう告げられた。

ーレビ 1：2ー

「イスラエルの子らに告げよ。あなたがたの中でだれかが主にささげ物を献げるときは、家畜の中から、
牛か羊をそのささげ物として献げなければならない。

1節を見ると、これらの御言葉があり、神はモーセを召され、語られました。そして2節、神はモーセに語
り始められ、何を話すかについて詳しく教えられました。これは、先ほど話した神ご自身からの直接的なお
告げです。「レビ記」の至るところにこのことがあるのがわかります。この直接的な語り。1節には、もうひ
とつ避けられない真理が書かれています。神がどこからモーセに語られたかに注目してください。それがわ
かりますか？ 神は「会見の天幕から」彼に語られました。ここで止めます。いいですか？ それを味わいま
す。これは説教にふさわしいでしょ？ もうわかりますよね？ 主に会う場所で主が告げられるのって、特
別なことだと思いませんか？ 主が語られることを聞く耳があり、私たちの天幕に入るなら、それを他の
人々のいのちに語る事ができるはずで。人々が私たちと会う時に。私たちの多くが、神の御言葉によっ
て、神が私たちへ望んでおられる事を語られる必要があるからです。モーセは彼らにこう言うことになりま
した。「あなたがたの中でだれかが主にささげ物を献げるときは/なら・・・」（レビ記 1：2参照）

これは神の招きです。招きです。私は、招きには肯定的な反応があったと言いたいです。予想通りでした。
再度、彼らが経験したこと、目撃したすべてのことについて話しました。神は彼らを救われました。彼らが
経験したそのすべてがあって、神へ何かをお捧げしないことがなぜありますか？ でしょ？ 神が望まれ、
仰ることなら何でも。絶対に。聖典によると、最初は深刻に受け止められていました。しかし、イスラエル
の民のように、私たちも同じです。私たちは救い出されるとすぐに、誰が救い出されたのか忘れま
す。そして私たちのささげ物は弱くなりました。ひ弱で力不足なもの。認められていないもの。心が準備不足です。
悲しいですね。留意ください。2節に、この全焼のささげ物は、イスラエルの子孫の誰であっても、制限な
く捧げることができます。富裕層に限らず、部族の指導者たちに限らず、男性だけでもありませんでした。
全焼のささげ物を捧げることを選ぶ者は、誰でも捧げることができました。すべての人がささげ物を持っ
て、主の御前に出ることが歓迎されました。しかし、厳しい決まりがありました。この全焼のささげ物には
条件がありました。そのいくつかを3節で見ます。神の御言葉をお読みします。

ーレビ記 1：3ー

そのささげ物が牛の全焼のささげ物である場合には、傷のない雄を献げなければならない。その人は自分
が主の前に受け入れられるように、それを会見の天幕の入り口に連れて行き、

ですから、全焼のささげ物は雄でなければなりません。神の御言葉が（牛の）”群れから”と語られる
時、これは、捧げられる動物が家畜であることを示します。捕まえたばかりの野生の動物ではありません。
違います。ちやうちやう。それはまったく違います。傷のないものでなければならなかったという事実を考
慮します。これはその動物が捧げる者にとって価値があるという意味です。ただささげる物、というだけで

はありません。それは犠牲でした。何か価値があるもの/こと。損失です。このことに留意するのは非常に重要です。自由意志のささげ物の重要性和、それが意味することを強調しすぎることはありません。これがただ指導者に従うだけとか、あるいは、私がせねばならない義務なら、受け入れられませんでした。皆さん、ついてきていますか？ 神は人の心を知っておられます。神は、このささげ物が最高ではない、とか、神が定められた決まりや命令に沿わないのをご存知でした。最高の物でなければなりません。傷のない、自由に捧げられ、縛られることなく。話の向かう先がわかりますか？ 私たちはこのことを明確にわかります。この宣言だけでも、イエス・キリストの完全性に結びつきます。「第一ペテロの手紙」1章18節と19節に記されています。神の御言葉をお読みします。

—I ペテロ 1 : 18—

ご存じのように、あなたがたが先祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはならず、

—I ペテロ 1 : 19—

傷もなく汚れもない子羊のようなキリストの、尊い血によったのです。

「傷もなく汚れもない」と読む時、これはその動物をたださっと検査しただけではありません。こんにちの工場とは違いますね？ あなたは検査員たちがつけた小さな番号を見ますが、彼らは検査してる？いいえ。ピー、ペタ、ピー、ペタ、、、—(笑)—いいえ、精査されたのです。時間がかかりました。これには細心の注意が払われました。完全さを神に示さねばならなかったからです。わかりますか？ 4節と5節に進みます。鮮明に描くために、神の御言葉をお読みします。

—レビ 1 : 4—

その全焼のささげ物の頭に手を置く。それがその人のための宥めとなり、彼は受け入れられる。

—レビ 1 : 5—

その若い牛は主の前で屠り、祭司であるアロンの子らがその血を携えて行って、会見の天幕の入り口にある祭壇の側面にその血を振りかける。

あなたが新しいクリスチャンで、この箇所を読むと、「何？」4節で、注目ください。ささげ物を捧げる者が、この雄牛のささげ物の頭に手を置きます。人の罪をその動物に移す象徴です。動物が罪を犯さないことは知っています。動物には魂がありません。罪がありません。今、被造物全体が罪の影響を受け、呻いています。(ローマ 8 : 22 参照)

しかし、動物に罪はありません。一時的な贖罪の犠牲です。それが選ばれた理由です。私は農夫ではありません。しかし、再度、これらの動物は家畜化されていました。農業出身の男が、いかに多くの動物がペットになるかを話していたことを思い出します。私はこんな感じで、「何？」「そうだ。私はペットの牛を飼っている。」—(笑)—私に何がわかります？ 皆さん、私が間違ってるかどうか確認したいならどうぞ。それが彼が私に話したことです。ペットの豚を飼っているとさえ言っていました。あの小さい生き物を覚えています。豚と一緒にいたシャーロット。(米国絵本：シャーロットのおくりもの)—(笑)—

少なくとも、あれはペットだったんでしょ？ しかし、想像してみてください。汚れのない雄牛を連れて行きます。でしょ？ しばらく(家畜の)群れの中にいたが、ひとつのしみもありません。あなたはそれをすべて精査します。よし！ あなたはこのしみのない雄牛を会見の天幕の入り口に連れて行き、そしてこの雄牛の頭に手を置きます。あなたはこの雄牛を屠ることを知っています。あなたが相棒と名付けた雄牛を。でしょ？ ご存知、動物には魂はなくても本能があります。それについて考えてください。その手を置く時に、その雄牛が、「ン〜。」(唸る)ちょっとあなたのほうに振り返って、「おお、なんてこった。」皆さん、聞いていますか？ 雄牛やらなんやらにちょっと思い入れがありますね。そう、非常に個人的なことでした。そうだったのです。また簡単に忘れられませんでした。ささげ物をする者がすることは屠ること。この光景を心に留めておかねばなりません。特にイエスに関係して。なぜなら、5節はこう語るからです。「その若い牛は主の前で屠られた」しかし、再度、留意ください。大祭司アロンの子らが同席しました。これが

イエス・キリストの十字架刑を指し示すもうひとつの詳細です。考えてみてください。罪深い人間が人の子を屠った。大祭司もそこにいました。実際、その時の大祭司はカヤパという名でした。彼は厳格な慣習を破りました。イエスの十字架刑を促し、時間を早めるために。この大祭司はサドカイ派でした。サドカイ派は復活を信じていませんでした。ここまで大丈夫ですか？ で、神のなされたことは何か？ 思い出してください。神はラザロという名の男の死をお許しになりました。神の人、人の子、イエス・キリストが、ラザロを死者の中からよみがえらしました。(ヨハネ 11：44参照)

彼らが信じていなかったことが、ここに示されました。リアルタイムに。聖句を通して振り返ると、イエスは何度もこう仰いました。「行って、祭司に見せなさい。」(ルカ 17：14参照)

神は同じ大祭司をお使いになり、来たるべきことを預言させられました。このことは、「ヨハネの福音書」11章49節から52節に記されています。神の御言葉をお読みします。

—ヨハネ 11：49—

しかし、彼らのうちの一人で、その年の大祭司であったカヤパが、彼らに言った。「あなたがたは何も分かっていない。

—ヨハネ 11：50—

一人の人が民に代わって死んで、国民全体が滅びないですむほうが、自分たちにとって得策だということ

—ヨハネ 11：51—

を、考えてもいない。」
このことは、彼が自分から言ったのではなかった。彼はその年の大祭司であったので、イエスが国民のために死のうとしておられること、

—ヨハネ 11：52—

また、ただ国民のためだけでなく、散らされている神の子らを一つに集めるためにも死のうとしておられることを、預言したのである。

何だって？ これがわかりますか？ ですから、よくこう質問されます。「なぜ神は、神に敵対する者たちが神のために預言することを許されるのか？」答えは、それがすることは、2つの件で彼らを告発することです。1つは彼らの自由意志について、同時に、神がすべての主権者であられることを示します。これは告発です。このことは「民数記」にも書かれています。バラムです。覚えていますか？ 再度、留意ください。カヤパ(カイアフア、カヤファとも発音する)は、その意味は中身がない。へこみ。おかしくないですか？ 彼は非常に落ち込んだに違いありません。イエスが死者の中からよみがえられたのを告げられた時に。何とされているか知ってます？ 「どんなに落ち込んでいても、カヤパがキリストを信じることはできなかったようだ。」それは悲しいことです。他の多くのことと同じように、信じようと信じまいと、落ち込み・消沈はプライド/高慢に起因することがあります。プライド/高慢が私たちの人生での大祭司となります。私たちはイエスのために高みを目指します。イエスがおられなければ、希望はありません。これは落ち込み・うつ病の臨床的側面をすべて取り上げているわけではありませんが、私は言います。イエスがそれらすべてに対する答えだと。5節に戻ります。祭司は、会見の天幕の入り口にある祭壇の側面にその血を振りかける。(レビ記 1：5参照)

留意ください。会見の天幕に入る入り口は一つしかありません。その入り口に血が振りかけられる。皆さん、つながりますか？ また、この扉に運ばれる全焼のささげ物は羊かヤギでも、と語られています。すべての繋がりがわかりますか？ 私にとって、これはイエスの言葉を指し示すものだからです。また、「ヨハネの福音書10章9節」にも記されています。神の御言葉は仰います。

—ヨハネ 10：9—

わたしは門です。だれでも、わたしを通過して入るなら救われます。また出たり入ったりして、牧草を見つ

けます。

イエスが完全な贖罪を提供する扉では？ イエスが血を流したことにより、その門から入るからこそ、私たちは救われます。繰り返しますが、キリストであるイエスの血塗られた扉。こうして私たちの罪はすべて赦されるのです。その入り口に差し出されたささげ物すべてが、扉である方の予表でした。イエスは、人間を神のもとに回復させる最後のささげ物で、動物がしたような、単に（罪を）覆うだけでなく、完全に取り除いてくださいます。動物の血は覆うだけ。イエスの血は、私たちの全ての罪を取り除く。たったひとつの行為、イエスのたったひとつの従順な行為が、このすべてを可能にしたのです。「詩篇 40 篇 6 節から 8 節」にある御言葉をよく考えてみてください。七十人訳聖書から読みます。その理由はすぐに分かります。神の御言葉は仰られます。

一詩篇 40 : 6 (七十人訳直訳) 一

生け贄も捧げ物も、あなたは望まない。しかし、あなたはわたしに肉体を用意なされ、全焼の捧げ物も、罪のためのいけにえも、あなたは必要となさらない。

一詩篇 40 : 7 (七十人訳直訳) 一

そのときわたしは言った。「見よ、わたしはこの書物の巻に、わたしについてが書かれている。

一詩篇 40 : 8 (七十人訳直訳) 一

わたしはあなたの御心を行いたいのです。わたしの神よ、わたしの心の中にあるあなたの掟を。」

聞き覚えがあるでしょうか？ イエスはこの 7 節の御言葉を引用されるから。イエスがこの御言葉を引用されたとき、すべての言葉を引用されたときと同様、私たちを聖句に立ち返らせておられます。それをする時間を取れば、非常に、価値があります。その用意された肉体とは、神の御心を行おうと望まれるイエスのお身体でした。繰り返しますが、イエスの血の犠牲によってのみ、真の贖罪の力が完成したのです。私たちは、人間の墮落以来、血が流されなければならなかったことを考えるべきです。皆さん、分かりますか？ 人間の墮落以来、血が流されなければならなかった。聖典がイエスによる流血について語る時、私たちは本文の 5 節で何が伝えられているのかよく考えるべきです。血を振りかけると記されているのは、打ち水みたいには考えてはいけません。まるで司祭がこう言って回るかのように、「はいはい、撒いて、撒いて。」そんなんじゃありません。これは膨大な量の血でした。事実、この動物たちの体は、ほとんど完全な出血でした。その血が流された。では、イエスが処刑人たちによってどのように急速に死んでいったように見えたか考えてみてください。それだけに、自分の目の前で突き刺して、確かめたかったのでしょうか。

「せいぜい死ぬには早すぎる。彼が死んだふりをしていないのを確認しよう。」それで彼らはイエスを突き刺した。すると、血と水が飛び出した。で、どうです？ あれがキリストの最後の血だったと、私は心から信じます。イエスはすべてを流されたと思います。イエスは、あの十字架上で終わらせることになるすべてを経験し、ただ血を流された。そういうレンズを通してみると、私には分かります。とても気が引き締まります。もうひとつ、5 節にあることに注目ください。人がささげ物を捧げると、大祭司がその人に代わって仲介する。その繋がりが分かりますか？ イエスは私たちの大祭司として、私たちのために仲介してくださいます。祈りにおいて、来週、御心なら、司祭の側面を学ぶ時、それがもっと分かるでしょう。では 6 節と 7 節、さらに詳細が記されています。神の御言葉をお読みします。

一レビ 1 : 6 一

また、全焼のささげ物はその皮を剥ぎ、各部に切り分ける。

一レビ 1 : 7 一

祭司であるアロンの子らは祭壇の上に火を置き、その火の上に薪を整える。

6 節に留意ください。全焼のささげ物は祭司によって皮を剥がされました。確かレビ記の 7 章 8 節だったと思いますが、祭司は皮を剥ぐ奉仕のため皮を与えられたとあります。細かいことですが、この全焼の捧げ物

の皮剥ぎについてです。それは重要です。私たちを「創世記」に立ち返らせるから。思い出してください。「創世記 3 章 21 節」に記されています。神の御言葉をお読みします。

一創世記 3 : 21ー

神である主は、アダムとその妻のために、皮の衣を作って彼らに着せられた。

ここで最初の生贄が捧げられたと考えられています。神はすぐに彼らを覆う必要があると考えられました。彼らはエデンの園を出る前から覆われました。アダムが罪を犯したので死がこの世に入り込んだと私達は知らされています。だから罪が故に血が流されねばならなかった。皆さん、聞いておられますか？ 彼らがそこにいたのは、まったく妥当だと思います。主がこの獣を屠られた時に。そこで彼らは、何が、主に受け入れられるささげ物かを教えられたはずで。考えてみてください。この地点から、それ以降、動物の皮が使われた。アダムとイブは、子供たちに服を着せなければならなかった。そして何が受け入れられるかを教えた。だから、カインとアベルに関する記述は非常に重要なのです。この全焼の捧げ物と一緒に読むと、大きな違いが出て分かります。皆さん、ついてきていますか？ 聞いてくださっているなら、主を褒め称えます。私たちはこの記述をよく知っています。「創世記 4 章 3 節から 5 節」にあります。神の御言葉が語ります。

一創世記 4 : 3ー

しばらく時が過ぎて、カインは大地の実りを主へのささげ物として持って来た。

一創世記 4 : 4ー

アベルもまた、自分の羊の初子の中から、肥えたものを持って来た。主はアベルとそのささげ物に目を留められた。

一創世記 4 : 5ー

しかし、カインとそのささげ物には目を留められなかった。

それでカインは激しく怒り、顔を伏せた。接点に分かりますか？ 多くの人が知っているように、カインの捧げ物は、彼が土を耕す者であったことから、土の実らせた自分の業に基づくと言われていています。しかし、それには問題があります。カインが自分の作物から持ってきたという記述はどこにもありません。ちなみに表面的にです。七十人訳聖書でもカインは地の果実からいけにえを捧げたとあります。が、それでも彼を地を耕す者と呼ぶ。だから、そこが問題なんです。彼自身の収穫かどうかは、全くと言っていいほど関係ないと思います。しかし、その真意は、カインが間違った捧げ物を主に捧げることにあります。アベルは自分の群れの捧げ物を持ってきただけでなく、彼は、肥えた物（脂肪）を携えてきました。その詳細が分かりますか？ その意味が分かりますか？ 彼はこの動物を屠り、皮を剥ぎ、バラバラにして主の前に捧げました。血を流さなければなりません。それが受け入れられる理由です。「ヨブ記」で同じことが分かります。「ヨブ記」は聖典の中で最も古い書物とされています。ですから、繰り返しますが、全焼の犠牲を捧げるという概念は、その始まりにさかのぼります。それだけではありません。考えてみてください。ノアは「創世記 7 章 2 節」で、すべての清い動物を雄と雌の 7 つがいつつを入れるよう言われました。では、誰がどうやって、どの動物が清いか分かるのか？ もしそれがモーセの律法まで正式に宣言されていなかったのなら。どうやって？ 神が彼らに仰ったからです。それが方法です。神は律法がなくとも、何が受け入れられ、真実かをすでにご存知でした。そして今日、このコンセプトには何の違いもありません。「ローマ人への手紙の 2 章 14 節」に記されています。神の御言葉をお読みします。

一ローマ 2 : 14ー

律法を持たない異邦人が、生まれつきのままで律法の命じることを行う場合は、律法を持たなくても、彼ら自身が自分に対する律法なのです。

ここで点と点が繋がりますか？ 人間の私たちには、言い訳はできません。全く。(レビ記) 8 節と 9 節の最初の部分に進みます。神の御言葉をお読みします。

ーレビ 1 : 8ー

祭司であるアロンの子らは、その切り分けた各部と、頭と脂肪を祭壇の火の上の薪の上に整える。

ーレビ 1 : 9aー

内臓と足は水で洗う。・・・

そして、ささげ物がどのように準備され、祭壇に置かれるのかについて、詳しく説明します。頭部は、これまたすでに完璧に精査されます。そして、内臓、すべての内臓が洗われます。清さを明らかにするために。足も同様に。この完璧なささげ物の準備を完成させるために。この完全さはすべて、誰を指し示しているのか。イエスです。イエスはまったく罪があらませんでした。私たちはこれらの主要部分をすべてここで関連付けることができます。聖典に戻ります。各々、その1つ1つに。そうしましょう。頭を見てみましょう。「第二コリント人への手紙」の5章21節、神の御言葉をお読みします。

ーII コリント 5 : 21ー

神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方において神の義となるためです。

これがわかりますか？ イエスは罪をご存知ありません。イエスの思いそのものが、常に清く正しくあられました。罪の思いなど1つもあらませんでした。それが完全性です。祭司はささげ物の内側の部位を準備する時、「第一ヨハネの手紙」3章5節、神の御言葉をお読みします。

ーI ヨハネ 3 : 5ー

あなたがたが知っているとおりに、キリストは罪を取り除くために現れたのであり、この方のうちに罪はありません。

罪はあらけません。このささげ物によって描かれている予型がわかりますか？ イエスはどんな罪もご存知ないことから、内側からどんな罪もあらませんでした。これが私たちの救い主であられます。イエスの完全性と聖さを理解するのは難しいです。次、祭司がささげ物を扱う時、外側の部位の完成へと進みます。足です。「ヘブル人への手紙」4章15節、神の御言葉をお読みします。

ーヘブル 4 : 15ー

私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでした、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。

神の御言葉だけがこれを行うことができます。イエスは、罪のないささげ物で、罪を知らず、内に罪を持たず、罪がないことを示しました。イエスは完全な義のうちを歩まれましたが、しかし、世の罪を背負われました。イエスの愛ゆえに。私たちは皆、このことを思い起こす必要があります。イエスがなしてくださったことに、実際に応えているかどうか、日々自分自身を吟味してください。この学びの締めくくりとして、この最後の箇所が最も明るい光となるはずですが。今日の箇所の9節の後半、神の御言葉をお読みします。

ーレビ 1 : 9bー

・・・祭司はこれらすべてを祭壇の上で焼いて煙にする。これは全焼のささげ物、主への食物のささげ物、芳ばしい香りである。

これは全てのささげ物の中で、完全に焼きつくす唯一のささげ物です。全焼のささげ物（燔祭）は、祭壇の上で完全に焼きつくされる唯一のささげ物です。他のささげ物は、食事として、これを持ち帰ったり、脂肪や金や肝臓とか持ち帰ったり、祭司にあげたりなどなど、、、しかし、このささげ物は、違います。完全に焼きつくされます。すべてが焼かれました。何も残りませんでした。そのすべては、その人自身の自由意志によって行われました。神がこれについて考えておられることを見落とすべきではありません。神はそれを「芳ばしい香り」と呼ばれます。(レビ 1 : 9後半参照)

神は目を留めておられます。神は本当にこの行いをご覧になります。神は注目されます。それを行うよう私たちが招かれ、承認されます。なぜ私たちはそうしないのですか？ これは神に感謝を捧げることです。神は、私たちが神に会いに来て交わるのをご覧になります。イエスは私たちの救い主であられるからです。誰がしませんか？ 再度、「芳ばしい香り」です。「詩篇」141 篇 2 節にもこれが書かれています。神の御言葉をお読みします。

一詩篇 141 : 2一

私の祈りが 御前への香として手を上げる祈りが タベのささげ物として立ち上りますように。

私たちが自由に神に捧げるものは、神が私たちに自由に与えてくださったもの、与え続けてくださるものと比べものになりません。それでもなお、イエスはすべてを成し遂げられました。いいですか、私たちは献身的な考え方を持つように言われます。それはキリストが成されたことではありませんか？ それはイエスを表していませんか？ そのような生き方をするように勧められています。これが使徒パウロが聖霊に導かれ「ローマ人への手紙」12 章 1 節のこの有名な箇所を書いた理由です。神の御言葉をお読みします。

一ローマ 12 : 1一

ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。

このすべてがどのようにつながるのか？ なぜそれほど重要なかわかりますか？ これが神のあわれみによる/ゆえのふさわしい礼拝であることに同意しませんか？ 生きたささげ物ですけど。それがわかりましたか？ 全焼のささげ物として、自分たちの自由意志で生き、私たちは近づいて、そのように自分自身を差し出すこと。神の祭壇に置かれ、完全に焼きつくされるために。これが私たちのふさわしい礼拝です。しかし、私たち自身を表す前に、これについて考えてみてください。私たちはどうやって自分を差し出せばいいのか？ そこに上がるのですか？ 何となくさんのしみでしょう。私たちは完全ではありませんけど、自分自身を精査していますか？ 私達がそこに上るのは、「今、私はこれをせなばならないから」？ それとも、自由にですか。神のあわれみゆえに、私たちは自分自身を差し出すのです。それが私の話していることです。おお、私たちは外見上、いろいろなへこみやくぼみを持ち得ます。神がご覧になるのは心です。このすべてについてもっと多くのことが語られます。しかし、「レビ記」を学ぶ時、私たちが新たな、あるいは回復した霊を持つように祈ります。それを見くびらないでください。たった 9 節でした。そのすべてを得ることすらできませんでした。しかし、神が私たちに全てを与えられたことを祈ります。ご起立ください。祈りましょう。

天のお父様、あなたの御言葉をありがとうございます。大変力強いです。私たちがただその中に飛び込み、完全に焼き尽くされることを祈ります。主よ、あなたはこれを受け止められ、私たちがそれを適応し、あなたに誉れと栄光をもたらすことを許してください。キリストと共に歩み、強められますように。そうすれば、私たちは自分自身を表し続け、生きたささげ物になることができます。心が喜ぶすることは、あなたが私たちにするように召す全てのこと。だから主よ、すべてに感謝します。私たちはあなたを愛し、褒め称えます。これが私たちのふさわしい礼拝です。イエス・キリストの力強い御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリー・カネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7